

カービュー マーケットウォッチ (2012年4月)

自動車総合サイト「carview.co.jp」を運営する株式会社カービュー（本社：東京都中央区、代表取締役社長：金子 昭一）は、社団法人 日本自動車販売協会連合会が公表する「月間登録台数ランキング」をもとに、日本国内における自動車マーケットの動きを独自分析する。

6カ月連続のプラスで、震災前の2010年比でも10.4%増に

12年 3月順位	12年 2月順位	動向	モデル名	メーカー名	台数
1	(1)	→	プリウス	トヨタ	45,496
2	(2)	→	フィット	ホンダ	34,161
3	(3)	→	アクア	トヨタ	29,156
4	(5)	↑	ヴィッツ	トヨタ	19,067
5	(4)	↓	フリード	ホンダ	16,257
6	(6)	→	セレナ	日産	13,376
7	(9)	↑	ノート	日産	10,653
8	(7)	↓	カローラ	トヨタ	10,193
9	(14)	↑	ラクティス	トヨタ	9,532
10	(12)	↑	デミオ	マツダ	9,123
11	(13)	↑	パッソ	トヨタ	9,109
12	(8)	↓	ヴェルファイア	トヨタ	9,108
13	(10)	↓	ヴォクシー	トヨタ	8,698
14	(15)	↑	キューブ	日産	8,019
15	(11)	↓	ステップワゴン	ホンダ	7,931
16	(16)	→	マーチ	日産	7,682
17	(25)	↑	インプレッサ	スバル	7,512
18	(17)	↓	ジューク	日産	6,889
19	(18)	↓	ノア	トヨタ	6,287
20	(19)	↓	アルファード	トヨタ	5,935

※ 社団法人 日本自動車販売協会連合会調べ

※ 輸入車および軽自動車を除く

カービュー編集部独自の分析

■ 6カ月連続のプラスで、震災前の2010年比でも10.4%増に プリウスが年度合計で3年連続トップを達成

今回は、日本自動車販売協会連合会（自販連）、全国軽自動車協会連合会（全軽自協）、日本自動車輸入組合（JAIA）が発表した3月の販売データからマーケット概況をチェックしていこう。まず輸入車、軽乗用車を含め、国内で販売された乗用車総数は64万916台で、前年同月比176.3%（貨物車、バスを含む新車総販売台数は75万1888台／前年同月比171.8%）と6カ月連続で前年を上回った。昨年は大震災で前年同月比37.4%減と大打撃を受けたこともあり、今年は大幅増となったが、リーマン・ショックから立ち直りつつあった10年3月（9年3月比では25.2%増だった）と比べても、10.4%増と2ケタのプラスになっている。各社の生産ペースが上がり、エコカー補助金の追い風にうまく乗ったようだ。ただエコカー補助金は、早ければ7月中、遅くとも9月末には底をつくという予想もあり、今の勢いがいつまで続くか要注目だ。

輸入車と軽乗用車を除く3/5ナンバーの国産乗用車（日産 マーチ輸入分のみ含む）は41万1534台で、前年同月比は185.2%。メーカーブランドごとの合計では、トヨタが20万6017台／前年同月比210.0%、スバルも1万5670台／同206.9%と倍増したのをはじめ、全メーカーブランドがプラスだった。

月間ランキングでは「トヨタ プリウス（ α 含む）」が4万5496台で10カ月連続トップ。2、3位は「ホンダ フィット（シャトル含む）」、「トヨタ アクア」で、トップ3に変動なし。29位に「マツダ CX-5」が4640台でランクインしたのが目新しいところだ。11年4月から12年3月の年度合計では「プリウス」が31万484台という過去最高で3年連続トップとなった。「プリウス α 」や「プリウスPHV」を含んだ台数とはいえ、大震災の影響を振り払っての記録達成は見事というほかない。2位は「フィット」で23万44323台。この2車は「スズキ ワゴンR」の17万4225台、「ダイハツ ミラ（イース、ココア含む）」の17万1301台を大幅に上回っていることも見逃せない。

軽乗用車は19万7189台で、前年同月比164.6%（貨物車を含めた全体では25万3929台／前年同月比160.5%）と6カ月連続のプラス。メーカー合計（乗用車のみ）では三菱が前年割れとなった以外、前年同月比は2ケタ超のプラスで、ダイハツが7万2738台／前年同月比168.3%で単月として過去最高を記録したほか、ホンダも3万179台／同249.4%で昨年より倍増と好調な売れ行きだ。

輸入乗用車は海外メーカー製のみでは3万1550台、前年同月比148.7%と8カ月連続で前年を上回った（日本メーカー製を含む輸入乗用車全体では3万9873台、前年同月比142.1%）。海外メーカーブランド別乗用車ランキングはVW（フォルクスワーゲン）が8232台で3カ月連続トップ。2位メルセデス・ベンツ5672台、3位BMW（ミニを除く）4976台、4位アウディ2891台、5位BMW ミニ2231台で前月から変動なし。年度合計ではVWが12年連続トップとなり、車名別では「ゴルフ」、「ポロ」が1、2位でVW勢がトップ2を独占した。

■ココも気になる！ その1

国内 No.2 の座を奪取した日産が今年の新車攻勢をかける

昨年、年間合計でホンダを抜いて国内 No.2 の座に返り咲いた日産は、11 年度合計でも3年ぶりにホンダを上回り、トヨタに次いで2位となった。日産は貨物車や海外生産輸入車を含む全新車販売で65万5426台、前年度比9.2%増、ホンダは60万648台、同1.3%減だった。軽自動車（貨物車含む）は日産15万2149台／前年度比7.5%増、ホンダ16万5658台／同7.4%増と同レベルの伸び率だったが、海外生産輸入車を含む登録車（3／5 ナンバー乗用車と貨物車の合計）では日産が50万3277台／前年度比9.7%増とプラスだったのに対し、ホンダは43万4990台／同4.3%減と低調だったのが響いた。昨年、日産はモデルチェンジの端境期で、ニューモデルが「モコ」と「ラフェスタハイウェイスター」しかなかったが、大震災の影響から素早く立ち直り、生産レベルを着実にキープしたのが大きかった。

そんな日産は今年、さらに攻めに転じる。4月下旬に発表予定の「シーマ」を皮切りに、「キャラバン」、「ノート」、「スカイライン」などニューモデルを続々投入するというのだ。日産は昨年、「セレナ」がミニバン No.1、「ジューク」も SUV トップとなったが、コンパクトハッチバックの「ノート」や上級セダンの「スカイライン」の投入で、これまで弱点となっていた部門でも復権を狙うというわけだ。

先日のニューヨークモーターショーでは日産の北米市場最量販車、「アルティマ」をモデルチェンジ。昨年、「トヨタ カムリ」に次いで26万8981台／前年比17.3%増だった「アルティマ」だけに、新型でさらなるジャンプアップを果たすはず。また世界最大のクルマ市場となった中国では昨年、19.0%増となる128.4万台を売上げ、日本メーカーとしてはダントツの No.1（2位はトヨタで88.7万台）に輝き、ヨーロッパ市場でも17.5%増の71.3万台と過去最高を記録。今年の新車攻勢で国内でも No.2 の座を確固たるものできるか注目したい。

■ココも気になる！ その2

独自の補助金制度で勢いを増すメルセデス・ベンツ

昨年、3万3207台／前年比7.4%増と2年連続で前年を上回ったメルセデス・ベンツ。特にCクラスが好調で、1万1710台／同27.2%増と高い伸び率を記録した。世界市場でも好調に推移し、前年比8.0%増の126万912台で過去最高となった。中国、ロシア、インドで過去最高を記録したほか、ドイツに次ぐ第2の市場となったアメリカでも24万5231台／同13.3%増と好調だった。世界市場でもやはり主力はCクラスで、前年比16.8%増の40万1340台で、メルセデス全体の31.8%を占めた。

メルセデス・ベンツのインポーターであるメルセデス・ベンツ日本は、2月に成立したエコカー補助金に合わせ、独自の補助金制度をスタート。補助金対象車以外のモデルにも10万円を支給する「メルセデスエコカー補助金」を設定したのだ。対象車はメルセデス37モデル、スマート2モデルだが、オプションの有無で対象外となるモデルだけでなく、AMGなどのスポ

ーツモデルにも補助金を支給するのが特徴。他のインポーターも続々と追従する施策を採り始めたが、輸入車ブランドの雄、メルセデスが先陣を切った姿勢は評価に値するはずだ。

さらにメルセデスは15年までに10車種もの新型車を投入することを公表。この中には年内に発表される予定の「Aクラス」などは含まれておらず、現行ラインナップには存在しない完全な新型車になるというから要注目だ。3月に11年ぶりにモデルチェンジされた「SLクラス」をはじめ、昨年のフランクフルトショーで新型が発表された「Bクラス」やニューヨークモーターショーに登場した新型「GL/GLKクラス」など、ここしばらくメルセデスのニューモデルラッシュから目が離せそうにない。

上記プレスリリースに関するお問い合わせ先

株式会社カービュー 総務部 広報チーム (pr@carview.co.jp)

tel : 03-5859-6158 fax : 03-5859-6180
